

2023年度

北海道大学大学院文学院

博士後期課程

学 生 募 集 要 項

※新型コロナウイルス感染症対策のため、募集要項の記載とは異なる内容で試験を実施（オンライン方式での実施を含む）もしくは試験を延期又は中止する可能性があります。最新の情報は北海道大学大学院文学院ウェブサイトに掲載しますので、定期的に確認するようお願いいたします。

2022年 5 月

2023年度北海道大学大学院文学院 博士後期課程学生募集要項

北海道大学大学院文学院には、人文学、人間科学の2専攻があり、それぞれ下記の講座及び研究室から構成されている。募集は、専攻を単位として、志望する研究室ごとに試験が実施される。

専攻	講座	研究室
人文学専攻	哲学宗教学	哲学倫理学
		宗教学インド哲学
	歴史学	日本史学
		東洋史学
		西洋史学
		考古学
	文化多様性論	文化人類学
		芸術学
		博物館学
	表現文化論	欧米文学
		日本古典文化論
		中国文化論
		映像・現代文化論
	言語科学	言語科学
	スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア学
	アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学
人間科学専攻	心理学	心理学
	行動科学	行動科学
	社会学	社会学
	地域科学	地域科学

目次

教育研究上の目的及びアドミッションポリシー	1
《一般入試》	4
《社会人特別入試》	9
各入試共通	15
・出願上の注意 ・出願書類の請求 ・入学手続 ・長期履修制度について ・個人情報の取り扱いについて ・入学試験に関する問い合わせ先 ・各種情報開示について ・海外からの検定料支払方法について ・その他	
別記1《参考》	17
・修士課程授業科目表 ・各研究室における専門分野	
別記2	21
・出願資格審査	
別記3	22
・オンラインで受験する方へ	
別記4	23
・研究室別試験案内	

教育研究上の目的及びアドミッションポリシー

1. 本学院の教育研究上の目的

本学院は、人文科学の諸領域において高度の専門的な教育研究を行うことにより、「ことば」に対する感受性及び論理的な思考力、総合的な判断力等を有する人材の育成を図るとともに、国際的に卓越した創造的な研究者を養成し、及びその資質の向上を図ることを目的とする。

(1) 人文学専攻

人文学専攻は、哲学宗教学、歴史学、文化多様性論、スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学、表現文化論、言語科学の7講座からなる。哲学宗教学講座には哲学倫理学、宗教学インド哲学の各研究室が、歴史学講座には日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学の各研究室が、文化多様性論講座には文化人類学、芸術学、博物館学の各研究室が、表現文化論講座には欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論の各研究室がそれぞれ含まれ、多岐にわたる学問領域を対象としている。

哲学宗教学講座は、経済と政治のグローバル化が進展する中で、価値観の対立と衝突も生まれている現代社会において、人間の在り方について根源的な問を発しつつ、その間に果敢に答えようとする深い学識を培う分野である。歴史学講座、文化多様性論講座、スラブ・ユーラシア学講座、アイヌ・先住民学講座は、他者と共感する真摯な姿勢と本質を見抜き相対化する批判精神を必要とする、広義の異文化を対象とする分野であり、古典を含む文献読解の方法、ヨーロッパ、アジア及び北方地域を含む多様な言語の修得、現地調査を含むデータ収集とその処理・分析方法、物質・精神にまたがる異文化へのアプローチ、地域や民族がかかえる現代的課題への視野、等について学際的・総合的な教育研究を行う。表現文化論講座は、多様な言語で記された文学・思想を対象とする日本文学、英米・英語圏文学、フランス文学、西洋古典学、中国文学、中国語学、中国思想、さらには映像論、批評理論、文化批評を対象とする視覚メディア文化や言語表現文化の教育研究が含まれる。言語科学講座は、英語学、ドイツ語学・ゲルマン語学、フランス語学・ロマンス語学、ロシア語学、国語学、日本語学など個別の言語を対象とする分野と言語理論を扱う言語学からなる。

本専攻においては、文献資料や先行研究から得られる知識はもとより、ときにはみずからフィールドへと出向いて異文化を体感する行動力も求められる。そのような自己と他者との対話を通して、文化の多様性と共通性を学び、過去と現在、中心と周縁を有機的に結びつけて世界の総体を捉え直すことのできる、バランスのとれた人材の育成を目指している。

本専攻の目的は、上記の多様な領域における個別的教育研究、並びに諸分野を複合的総合的に横断する領域の教育研究を通して専門的学識と幅広い教養を合わせ持つ学生を育成し、中等・高等教育機関、博物館・資料館、国際交流機関やIT、マスメディア等、官公庁や企業のさまざまな分野で活躍できる人材を社会に送り出すとともに、創造性豊かな優秀な研究者の育成を目指している。また海外の研究者を招いて講演会、研究会等を積極的に行い、学生に海外の研究者と接する機会を提供するとともに、学生の海外派遣を含む研究教育の国際化に取り組み、国際的な視点を身につけた人材の育成を目指している。

(2) 人間科学専攻

人間科学専攻は、心理学、行動科学、社会学、地域科学の4講座からなる。各講座には同じ名称の研究室がおかれ、1講座1研究室の体制となっている。

本専攻は心理学講座(認知心理学、認知科学、実験心理学)、行動科学講座(社会心理学、社会環境と行動、文化と心理など行動科学全般)、社会学講座(社会学理論、社会構造と社会変動、社会集団)、地域科学講座(地域社会学、人文地理学、社会生態学)からなり、実験、コンピュータ・シミュレーション、社会調査、聞き取り調査、フィールドワークなど多様な方法論を用い、人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチを行っている。

本専攻の目的は、まず、学生がそれぞれのディシプリンを修得した上で、専攻に共通の授業を通して微視的及び巨視的な視点を獲得すること、また国際学術誌への投稿、国際学会での発表、国内外の研究交流等を通して、大学や様々な研究機関において国際的水準に立って研究できる研究者を育成することである。さらに本専攻は、官公庁、企業等に就職し、教育、医療、IT、マスメディア等の幅広い領域で活躍できる高度専門家の養成を目指している。

2. アドミッションポリシー

学院の理念

北海道大学大学院文学院は、グローバル化・情報化が進展する中で、従来の価値観が変化しつつある現代にあって、そこに生きる人間と人間が創り出す社会や文化の本質を学ぶことができる大学院教育を提供し、人文社会科学諸分野における専門的知識と研究方法を身に付け、社会の様々な領域において活躍できる人材を育成する。

教育目標

全国屈指の多様な研究分野と豊富な教員スタッフを擁する本学院は、学部での学修の成果をさらに向上・発展させ、徹底した少人数教育を通じて、個別の研究分野を深く追究し、現代社会のさまざまな問題に専門的な視点をもって取り組むことのできる人材を育成することを目標とする。

人文学専攻

専攻の理念

北海道大学大学院文学院人文学専攻は、思想、文化、歴史、言語、文学、地域研究等を教育研究の対象とし、これらの個別領域、さらにそれらを横断する領域に関して、深い専門知識並びに高い問題解決能力を身につけ、その成果を社会における様々な分野で生かすことのできる学生を求める。

〈博士後期課程〉

求める学生像

北海道大学大学院文学院人文学専攻博士後期課程は、以下に示す目標を達成する意志をもつ学生を求める。

- ・人文学の諸領域に関する高度な専門知識をもとに研究を進め、広汎で深い知識を修得するとともに、当該領域の問題に積極的に取り組み、学術的に貢献できる。
- ・高度なコミュニケーション能力によって国際的な交流を深めつつ、各専門分野において高い独創性と指導力を発揮できる。
- ・専門とする研究成果を、社会に分かりやすく説明し還元するとともに、さらなる知の創造活動へとつなぐことができる。

そのために、入学希望者には、専門分野に関する高度な専門知識及び分析能力並びに研究遂行に必要な高度のコミュニケーション能力を養っておくことが期待される。

入学者選抜の基本方針

(1) 一般入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、口述試験等の結果及び出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、口述試験では、提出された修士学位論文(写)・研究計画書等に基づいて、専門知識・研究計画等について試問することにより、入学後の研究遂行に必要な高度な専門知識・分析能力並びにコミュニケーション能力等を評価する。また、研究室によっては、筆記による試験等を課すことにより、各専門分野における研究遂行に必要となる高度な専門知識や表現力等を評価する。

(2) 社会人特別入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、口述試験等の結果及び出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、口述試験では、提出された研究分野の論文(写)・研究計画書等に基づいて、専門知識・研究計画等について試問することにより、入学後の研究遂行に必要な高度な専門知識・分析能力並びにコミュニケーション能力等を評価する。また、研究室によっては、筆記による試験等を課すことにより、各専門分野における研究遂行に必要となる高度な専門知識や表現力等を評価する。

人間科学専攻

専攻の理念

北海道大学大学院文学院人間科学専攻は、個体としての人間やそれによって構成される集団、社会、地域を教育研究の対象とし、これらの諸要素間の相互関係を総合的に解明するため深い専門知識並びに高い問題解決能力を身につけ、その成果を社会における様々な分野で生かすことのできる学生を求める。

〈博士後期課程〉

求める学生像

北海道大学大学院文学院人間科学専攻博士後期課程は、以下に示す目標を達成する意志をもつ学生を求める。

- ・人間個人や集団について人文・社会科学的立場から、実証的なアプローチによって研究を進め、広汎で深い知識を修得するとともに、優れた調査能力・分析能力・考察力等を身につけ、学術的に貢献できる。
- ・高度なコミュニケーション能力によって国際的な交流を深めつつ、各専門分野において高い独創性と指導力を発揮できる。
- ・専門とする研究成果を、社会に分かりやすく説明し還元するとともに、さらなる知の創造活動へとつなぐことができる。

そのために、入学希望者には、専門分野に関する高度な専門知識及び分析能力並びに研究遂行に必要な高度のコミュニケーション能力を養っておくことが期待される。

入学者選抜の基本方針

(1) 一般入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、口述試験等の結果及び出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、口述試験では、提出された修士学位論文(写)・研究計画書等に基づいて、専門知識・研究計画等について試問することにより、入学後の研究遂行に必要な高度な専門知識・分析能力並びにコミュニケーション能力等を評価する。また、研究室によっては、筆記による試験等を課すことにより、各専門分野における研究遂行に必要となる高度な専門知識や表現力等を評価する。

(2) 社会人特別入試

専攻の理念並びに課程の求める学生像に相応しい資質を有しているかを判断するため、口述試験等の結果及び出願書類の内容によって、選抜を行う。このうち、口述試験では、提出された研究分野の論文(写)・研究計画書等に基づいて、専門知識・研究計画等について試問することにより、入学後の研究遂行に必要な高度な専門知識・分析能力並びにコミュニケーション能力等を評価する。また、研究室によっては、筆記による試験等を課すことにより、各専門分野における研究遂行に必要となる高度な専門知識や表現力等を評価する。

《一般入試》

本学院は、博士後期課程の学生募集を下記の要領に従い、《一般入試》を前期(9月)と後期(2月)とに分けて2度行う。入学志願者は、前期と後期のいずれか、又は両方を受験することができる。

1. 専攻及び募集人員

人文学専攻	(前・後期)	28 名	}	合計 35 名
人間科学専攻	(前・後期)	7 名		

2. 出願資格

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者又は 2023 年3月までに授与見込みの者
- (2) 外国の大学において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を有する者又は 2023 年3月までに授与見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は 2023 年3月までに授与見込みの者(「3. 出願資格審査」参照)
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は 2023 年3月までに授与見込みの者(「3. 出願資格審査」参照)
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和 51 年法律第 72 号)第1条第2項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了した者
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第 16 条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者(「3. 出願資格審査」参照)
- (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)。(別記2, 21頁参照)
 - ※大学を卒業し、又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (8) 本学院において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、平成 11 年4月1日以前に出生したもの(別記2, 21 頁参照)
 - ※短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業業者や外国大学日本分校等修了者など修士の学位を有していない者で、上記(7)に該当しない者が対象

3. 出願資格審査

- 「2. 出願資格」の(3), (4), (6)により出願しようとする者は、【前期試験】2022年6月17日(金)、【後期試験】2022年11月11日(金)までに本学院に申し出ること。
- 「2. 出願資格」の(7), (8)により出願しようとする者は、別記2(21 頁)により必要書類を提出すること。

4. 出願書類

出願書類等	備 考
☐ 入学願書 ☐ 受験票・写真票 ☐ 住所シール (本要項に綴じ込みの用紙)	入学願書及び受験票・写真票に、応募する専攻名と志望する研究室名を記入すること。 研究室名については、別記1(17～20頁)を参考にして記入すること。 海外在住者は「住所シール」の提出不要。
☐ 成績証明書(コピー不可)	出身大学(研究科)長の発行するもの。本学文学院・文学研究科既卒者は提出不要(修了見込みの者は添付すること)。
☐ 修了(見込)証明書(コピー不可)	出身大学(研究科)長の発行するもの。本学文学院・文学研究科出身者は提出不要。 外国の大学を修了した場合は、修了(見込)証明書に取得学位が記載されているもの。 【重要】中華人民共和国(香港・マカオ特別行政区を除く)の大学を修了、又は修了見込みの者は、以下の書類を提出してください。 既卒者…a 修了証明書(取得学位が記載されているもの)(コピー不可) b 学歴証書電子登録票(教育部学历证书电子注册备案表) c 修了証書(毕业证书)及び学位証書(学位证书)のコピー 修了見込者…a 修了見込証明書(コピー不可) b オンライン在籍認証レポート(教育部学籍在线验证报告) 上記のうち、書類bは中華人民共和国教育部認証システム(中国高等教育学历证书查询 http://www.chsi.com.cn/xlcx/bgys.jsp)より取得してください。 また、提出時点でWeb認証の有効期限が15日以上残っていることを確認してください。

□修士学位論文(コピー)	修士学位論文のコピー、又はそれに代わる学術論文のコピーをクリップ止めて提出すること。 なお、その他に参考となる論文があれば添えて提出してもよい。 修士論文又はそれに代わる学術論文が日本語又は英語以外の言語で執筆されている場合、日本語又は英語で作成した要約を添付すること。分量はA4判1～2枚程度とする。
□入学後の研究計画書	A4判(任意の様式)で作成のうえクリップ止めて提出すること(4,000字以内)。
□受験票送付用封筒 (本要項に綴じ込みの封筒)	本学院所定の封筒に354円分の切手を貼付し、住所、氏名、郵便番号を記載のこと。 海外在住者は提出不要。
□検定料 30,000円 (本要項に綴じ込みの払込書) ※既納の検定料は、以下の場合を除き返還できない。 ①出願しなかった場合 ②誤って二重に払い込んだ場合 ③徴収を必要としない者が誤って払い込んだ場合 【返還方法の問い合わせ先】 北海道大学文学事務部 教務担当 (011)706-3005,3004	本学大学院の修士課程(博士前期課程)を修了見込みの者及び国費外国人留学生は納入不要。 ①本学所定の払込書の※欄に、志願者本人の住所・氏名(漢字、フリガナ)、電話番号を黒のボールペンで正確に記入して、必ず日本国内の銀行(ゆうちょ銀行を含む。以下同じ。)窓口で振り込むこと。ATM(現金自動預払機)は使用不可。 ②「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」を銀行の窓口から受け取る際には、必ず「受付局日附印」を確認すること。「受付局日附印」が押印されていないと願書は受理できない。 ③「受付局日附印」が押印された「検定料受付証明書」を検定料受付証明書貼付台紙の所定の欄に貼り付けて提出すること。 ④「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」は、無くさないよう注意すること。 ※海外在住者は、ネット出願システムにより、クレジットカード等による支払いが可能です(※検定料に加えて事務手数料 500 円がかかります)。希望者は16頁に記載の「海外からの検定料支払方法について」を確認し、申し込んでください。
□研究室別の提出物等	別記4に従い、研究室ごとに定める提出物の提出、必要事項の追記をすること。

外国人留学生の場合は、以下の書類を併せて提出すること。

出願書類等	備 考
□推薦書	出身大学の指導教員が作成したもの。 本学院出身者(研究生を含む。)は、提出不要。
□外国籍であることを証明する書類	パスポート(在留資格の確認できる頁)のコピー又は在留カードのコピー等。
□修学に必要な経済能力を証明する書類	本人名義の通帳のコピー、残高証明書等(日本円で100万円程度)。 国費外国人留学生は提出不要。
□国費外国人留学生証明書	国費外国人留学生であることの証明(該当者のみ提出)。

5. 出願期間及び提出先

(1) 出願期間

【前期試験】2022年7月11日(月)から7月15日(金)まで

【後期試験】2023年1月6日(金)から1月12日(木)まで

持参の場合:受付時間は平日午前9時から午後5時まで。

郵送の場合:この期間内に**必着**のこと。海外在住者の場合も必着。**※電子媒体での提出は認められません。**
災害や交通事情等による配達遅延リスクを考慮のうえ発送すること。

(2) 提出先

北海道大学文学事務部教務担当(〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目)

出願書類を郵送する場合には、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書きし、書留郵便とすること。

申し込みフォームについて

上述の出願書類の提出に加えて、文学院ウェブサイト掲載の「申し込みフォーム」へ入力すること。
申し込みフォームには以下の QR コード又は URL からアクセスする。

【前期試験】



(URL <https://forms.gle/qVWuKMEpbJvqLK6N9>)

【後期試験】



(URL <https://forms.gle/GT3e2BZXy2XAcR4T7>)

前期試験は6月24日(金)、後期試験は11月18日(金)までに受付開始とする予定なので、出願期日までに入力すること。申し込みフォームへの入力及び検定料納入後、出願書類を出願期間内(必着)に提出(郵送又は持参)することで出願にかかる手続きが完了する。

6. 入学試験期日及び場所

(1) 試験期日 【前期試験】 2022年9月6日(火) 10:00から

【後期試験】 2023年2月9日(木) 10:00から

(2) 場 所 北海道大学大学院文学院(札幌市北区北10条西7丁目)

※試験室等の詳細については受験票送付時に通知する。

※本学での受験が困難な場合は、オンラインでの受験を認める。受験方法について、願書に明示すること。

オンラインでの受験希望者は、別記3及び別記4を参照の上、受験に必要な環境等を整えておくこと。

なお、原則として、出願後の受験方法変更は認められない。

7. 選抜方法

研究室ごとに行う口述試験等の結果及び出願書類を総合して合格者を決定する。

ただし、外国人志願者の選考は、特別の選考によることがあるので、本学院に照会すること。

口述試験等: 口述試験は、提出された修士学位論文(写)・研究計画書等に基づいて専門知識・研究計画等について試問する。このほかに研究室によっては筆記による試験等を課することがある(別記《一般入試》, 8頁参照)。

8. 合格者発表

【前期試験】 2022年9月16日(金) 午後4時

【後期試験】 2023年2月20日(月) 午後4時

合格者受験番号について文学院公用掲示板への掲示及び文学院ウェブサイトへの掲載を行うとともに、受験者宛、可否を郵送(海外在住者についてはメール)により通知する。電話等による問い合わせには一切応じない。

なお、通知の到着は、5～6日後(宛先が日本国内の場合)になることがある。

9. 新型コロナウイルス感染症の影響による入試の変更等について

(1) 入学試験を変更又は中止することがある。変更等を行う場合は、「前期試験」については6月24日(金)、「後期試験」については11月18日(金)までに決定し、本学院ウェブサイトで周知する予定である。ただし、新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大等により、上述の期日以降に変更を決定する場合がある。

(2) 「前期試験」と「後期試験」の2回の試験実施を予定しているが、いずれかの試験を中止し、受験の機会が1回のみとなる可能性がある。

(3) 試験実施方法をオンライン方式のみに変更して実施する可能性がある。

(4) 日本政府による入国制限等により、希望する時期に受験できなくなる可能性があるため、海外在住者は特に留意すること。

- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響で郵便に遅れが生じる地域がある。出願期間内に願書(原本)が届かなかった場合、受け付けることは出来ないため、早めに願書等を含む出願書類を取り寄せるとともに証明書類を揃え、期日までに届くように準備を進めること(特に海外在住者は留意すること)。

別記《一般入試》

人文学専攻

研究室名	口 述 試 験 等
哲学倫理学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語(英語・独語・仏語・古典ギリシア語・ラテン語等のうち一つないし二つ)の文章を読み質問に答えることを求める(辞書持込み不可)。
宗教学インド哲学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
日本史学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
東洋史学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
西洋史学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
考古学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
文化人類学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
芸術学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
博物館学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
欧米文学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
日本古典文化論	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
中国文化論	・中国語文献読解。辞書持込み可。 ・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
映像・現代文化論	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
言語科学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
スラブ・ユーラシア学	・外国語文献読解:英語2題, ロシア語2題の中から任意の2題を選択し、日本語訳を行うか、英語のロシア語訳もしくはロシア語の英語訳を行う。辞書持込み可(電子辞書は不可)。 ・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
アイヌ・先住民学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。

人間科学専攻

研究室名	口 述 試 験 等
心理学	・英語文献読解及び英作文。辞書持込み不可。 ・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
行動科学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識、研究能力、英語能力、入学後の研究計画などについて試問する。
社会学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
地域科学	・提出された修士学位論文又はそれに代わる学術論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。

《社会人特別入試》

本学院は、博士後期課程の学生募集を下記の要領に従い、《社会人特別入試》を前期(9月)と後期(2月)とに分けて2度行う。入学志願者は、前期と後期のいずれか、又は両方を受験することができる。

1. 専攻及び募集人員

人文学専攻	(前・後期)	若干名
人間科学専攻	(前・後期)	若干名

2. 出願資格

2-1 下記の各号のいずれかに該当する者で、修士の学位又はこれに相当する資格を得た後、2023 年3月末日までに通算2年以上の社会経験(研究生及び大学院学生としての期間は含まない。)を有する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国の大学において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を有する者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者(「3. 出願資格審査」参照)
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者(「3. 出願資格審査」参照)
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和 51 年法律第 72 号)第1条第2項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了した者
- (6) 外国の学校、(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者(「3. 出願資格審査」参照)
- (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第 118 号参照)(別記2, 21 頁参照)

※大学を卒業し、又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

2-2 下記の各号のいずれかに該当する者で、在職者(常勤又はそれに準ずるものに限る。)として 2023 年3月末日までに2年以上の社会経験を有する者

- (8) 本学大学院の修士課程に社会人特別入試により入学し、在職のまま修了した者又は 2023 年3月までに修了見込みの者で引き続き研究を志望している者
- (9) 他大学大学院の修士課程を在職のまま修了した者又は 2023 年3月までに修了見込みの者で引き続き同一分野の研究を志望している者
- (10) 本学院において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、平成 11 年4月1日以前に出生した者(別記2, 21 頁参照)

※短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生や外国大学日本分校等修了者など修士の学位を有していない者で、上記(7)に該当しない者が対象

3. 出願資格審査

「2.出願資格」の(3)、(4)、(6)により出願しようとする者は、【前期試験】2022 年6月 17 日(金)、【後期試験】2022 年 11 月 11 日(金)までに本学院に申し出ること。

「2.出願資格」の(7)、(10)により出願しようとする者は、別記2(21 頁)により必要書類を提出すること。

4. 出願書類

出願書類等	備 考
☐ 入学願書 ☐ 受験票・写真票 ☐ 住所シール (本要項に綴じ込みの用紙)	入学願書及び受験票・写真票に、応募する専攻名と志望する研究室名を記入すること。研究室名については、別記1(17～20頁)を参考にして記入すること。 海外在住者は「住所シール」の提出不要。
☐ 成績証明書(コピー不可)	出身大学(研究科)長の発行するもの。本学文学院・文学研究科既卒者は提出不要(修了見込みの者は添付すること)。
☐ 修了(見込)証明書(コピー不可)	出身大学(研究科)長の発行するもの。本学文学院・文学研究科出身者は提出不要。 外国の大学を修了した場合は、修了証明書に取得学位が記載されているもの。 【重要】中華人民共和国(香港・マカオ特別行政区を除く)の大学を修了、又は修了見込みの者は、以下の書類を提出してください。 既卒者…a 修了証明書(取得学位が記載されているもの)(コピー不可) b 学歴証書電子登録票(教育部学历证书电子注册备案表) c 修了証書(毕业证书)及び学位証書(学位证书)のコピー 修了見込者…a 修了見込証明書(コピー不可) b オンライン在籍認証レポート(教育部学籍在线验证报告) 上記のうち、書類bは中華人民共和国教育部認証システム(中国高等教育学历证书查询 http://www.chsi.com.cn/xlcx/bgys.jsp)より取得してください。 また、提出時点でWeb認証の有効期限が15日以上残っていることを確認してください。
☐ 在職証明書又はこれに代わるもの	
☐ 研究業績一覧	
☐ 研究分野の論文(コピー)	志望分野に関連する論文等のコピー(クリップ止め)3点以内(修士学位論文を含めてもよい)。
☐ 入学後の研究計画書	A4判(任意の様式)で作成のうえクリップ止めて提出すること(4,000字以内)。
☐ 受験票送付用封筒 (本要項に綴じ込みの封筒)	本学院所定の封筒に354円分の切手を貼付し、住所、氏名、郵便番号を記載のこと。 海外在住者は提出不要。
☐ 検定料 30,000円 (本要項に綴じ込みの払込書) ※既納の検定料は、以下の場合を除き返還できない。 ①出願しなかった場合 ②誤って二重に払い込んだ場合 ③徴収を必要としない者が誤って払い込んだ場合 【返還方法の問い合わせ先】 北海道大学文学事務部 教務担当 (011)706-3005, 3004	本学大学院の修士課程(博士前期課程)を修了見込みの者は納入不要。 ①本学所定の払込書の※欄に、志願者本人の住所・氏名(漢字、フリガナ)、電話番号を黒のボールペンで正確に記入して、必ず日本国内の銀行(ゆうちょ銀行を含む。以下同じ。)窓口で振り込むこと。ATM(現金自動預払機)は使用不可。 ②「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」を銀行の窓口から受け取る際には、必ず「受付局日附印」を確認すること。「受付局日附印」が押印されていないと願書は受理できない。 ③「受付局日附印」が押印された「検定料受付証明書」を検定料受付証明書貼付台紙の所定の欄に貼り付けて提出すること。 ④「振込金(兼手数料)受領書」及び「検定料受付証明書」は、大切なものなので、無くさないよう注意すること。 ※海外在住者は、ネット出願システムにより、クレジットカード等による支払いが可能です(※検定料に加えて事務手数料 500 円がかかります)。希望者は16頁に記載の「海外からの検定料支払方法について」を確認し、申し込んでください。
☐ 研究室別の提出物等	別記4に従い、研究室ごとに定める提出物の提出、必要事項の追記をすること。

5. 出願期間及び提出先

(1) 出願期間

【前期試験】 2022年7月11日(月)から7月15日(金)まで

【後期試験】 2023年1月6日(金)から1月12日(木)まで

持参の場合: 受付時間は平日午前9時から午後5時まで。

郵送の場合: この期間内に**必着**のこと。海外在住者の場合も必着。**※電子媒体での提出は認められません。**

災害や交通事情等により配達遅延のリスクを考慮の上で発送すること。

(2) 提出先

北海道大学文学事務部教務担当(〒060-0810 札幌市北区北 10 条西7丁目)

出願書類を郵送する場合には、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書きし、書留郵便とすること。

申し込みフォームについて

上述の出願書類の提出に加えて、文学院ウェブサイト掲載の「申し込みフォーム」へ入力すること。

申し込みフォームには以下の QR コード又は URL からアクセスする。

【前期試験】



(URL <https://forms.gle/qVWuKMEpbJvqLK6N9>)

【後期試験】



(URL <https://forms.gle/GT3e2BZXy2XAcR4T7>)

前期試験は6月 24 日(金)、後期試験は 11 月 18 日(金)までに受付開始とする予定なので、出願期日までに入力すること。申し込みフォームへの入力及び検定料納入後、出願書類を出願期間内(必着)に提出(郵送又は持参)することで出願にかかる手続きが完了する。

6. 入学試験期日及び場所

(1) 試験期日 【前期試験】 2022 年9月6日(火) 10:00から

【後期試験】 2023 年2月9日(木) 10:00から

(2) 場 所 北海道大学大学院文学院(札幌市北区北 10 条西7丁目)

※試験室等の詳細については受験票送付時に通知する。

※本学での受験が困難な場合は、オンラインでの受験を認める。受験方法について、願書に明示すること。

オンラインでの受験希望者は、別記3及び別記4を参照の上、受験に必要な環境等を整えておくこと。

なお、原則として、出願後の受験方法変更は認められない。

7. 選抜方法

研究室ごとに行う口述試験等の結果及び出願書類を総合して合格者を決定する。

口述試験は、提出された研究分野の論文・研究計画書等その他に基づいて専門知識・研究計画等について試問する。

このほかに研究室によっては筆記による試験等を課すことがある(別記《社会人特別入試》, 13 頁参照)。

8. 合格者発表

【前期試験】 2022 年9月 16 日(金) 午後4時

【後期試験】 2023 年2月 20 日(月) 午後4時

合格者受験番号について文学院公用掲示板への掲示及び文学院ウェブサイトへの掲載を行うとともに、受験者宛、合否を郵送(海外在住者についてはメール)により通知する。電話等による問い合わせには、一切応じない。

なお、通知の到着は、5～6日後(宛先が日本国内の場合)になることがある。

9. 教育方法の特例(大学院設置基準第 14 条による特例)について

本学院では、通常、平日の1講時～5講時(8:45～18:00)に授業を行うことになっているが、有職者である学生に限り、その所属先における勤務条件、通学に要する時間等について、教員が考慮した上で、通常の授業時間帯以外の特定の時間又は時期に授業を設けることが許されている。この特例による授業の実施を希望する者は、合格発表後、指導を希望する教員に申し出るとともに、今後の研究・学習計画等について指導を受けること。

10. 新型コロナウイルス感染症の影響による入試の変更等について

- (1) 入学試験を変更又は中止することがある。変更等を行う場合は、「前期試験」については6月24日(金)、「後期試験」については11月18日(金)までに決定し、本学院ウェブサイトで周知する予定である。ただし、新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大等により、上述の期日以降に変更を決定する場合がある。
- (2) 「前期試験」と「後期試験」の2回の試験実施を予定しているが、いずれかの試験を中止し、受験の機会が1回のみとなる可能性がある。
- (3) 試験実施方法をオンライン方式のみに変更して実施する可能性がある。
- (4) 日本政府による入国制限等により、希望する時期に受験できなくなる可能性があるため、海外在住者は特に留意すること。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響で郵便に遅れが生じる地域がある。出願期間内に願書(原本)が届かなかった場合、受け付けることは出来ないため、早めに願書等を含む出願書類を取り寄せるとともに証明書類を揃え、期日までに届くように準備を進めること(特に海外在住者は留意すること)。

別記《社会人特別入試》

人文学専攻

研究室名	口 述 試 験 等
哲学倫理学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語(英語・独語・仏語・古典ギリシア語・ラテン語等のうち一つないし二つ)の文章を読み質問に答えることを求める(辞書持込み不可)。
宗教学インド哲学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
日本史学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
東洋史学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
西洋史学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
考古学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
文化人類学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
芸術学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。
博物館学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
欧米文学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
日本古典文化論	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
中国文化論	・中国語文献読解。辞書持込み可。 ・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
映像・現代文化論	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
言語科学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
スラブ・ユーラシア学	・外国語文献読解: 英語2題, ロシア語2題の中から任意の2題を選択し, 日本語訳を行うか, 英語のロシア語訳もしくはロシア語の英語訳を行う。辞書持込み可(電子辞書は不可)。 ・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
アイヌ・先住民学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。

人間科学専攻

研究室名	口 述 試 験 等
心理学	・英語文献読解及び英作文。辞書持込み不可。 ・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
行動科学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識、研究能力、英語能力、入学後の研究計画などについて試問する。
社会学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。
地域科学	・提出された研究分野の論文と研究計画書に基づいて、専門知識及び研究能力、入学後の研究計画について試問する。そのなかで、専門に関わる外国語の文章を読み質問に答えることを求める場合がある(辞書持込み不可)。

一般入試, 社会人特別入試共通

・出願上の注意

- (1) 入学願書の履歴事項欄には, 高等学校卒業以降の履歴を全て記載すること。入学後, 履歴中に重大な虚偽のあることが判明した場合は, 入学を取り消すことがあるので注意すること。
- (2) 病気・負傷や障害等により, 受験及び修学に際して特別な配慮を必要とする者は, 所定の期日までに文学事務部教務担当に申し出ること。
〈所定の期日〉前期試験(9月)受験者:2022 年6月 17 日(金), 後期試験(2月)受験者:2022 年 11 月 11 日(金)

・出願書類の請求

募集要項(出願書類)は, 本学院ウェブサイトから請求すること。
北海道大学大学院文学院 <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

・入学手続

- (1) 入学手続期間 3月中旬(入学手続の詳細は, 2月下旬に通知する。)
- (2) 入学料 282,000 円
本学大学院の修士課程(博士前期課程)を修了し, 引き続き博士後期課程に進学する者からは, 徴収しない。
- (3) 授業料 前期分 267,900 円(年額 535,800 円)
(注1) 上記の納付金は予定額であり, 今後改定される場合がある。
(注2) 在学中に授業料改定が行われた場合には, 改定時から新授業料が適用される。

・長期履修制度について

この制度は, 主として時間的制約の多い社会人の修学に配慮したもので, 標準の修業年限より長い期間をかけて計画的な履修を行うためのものである。

これに申請できるのは, 官公庁・企業等に在職している者(給与の支給を受け, 職務を免除されている者を除く。), 自ら事業を行っている者等フルタイムの有職者, 育児及び親族の介護等にたずさわっている者, 又はそれらに準じる仕事や負担によって修学に重大な影響がある者に限定される。

希望者は2023 年1月 6 日(金)から2023 年1月 12 日(木)に申請を行い, 本学院における審査を経て, 2月下旬に適用が決定される。入学時に長期履修が認められた者の授業料は, 概ね標準修業年限に納付すべき授業料の額(年額×3年)を長期履修が認められた年数で除した額を年額として決定する。

なお, 申請書類には, 長期履修を希望する理由が確認できる書類等を添付する必要がある。申請者は, 文学事務部教務担当にて事前に申請書類を受領のうえ, 申請に必要な書類を長期履修制度申請時まで揃えておくこと。

長期履修申請書の郵送を希望する場合は, 返信用封筒(角形2号)に 120 円分の切手を貼付け, 住所, 氏名, 郵便番号を記載のうえ, 封筒のおもてに「長期履修申請書(新入生用)請求」と明記して請求すること。

【長期履修申請書 請求先】

北海道大学文学事務部教務担当
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西7丁目

以下 URL 及び右の QR コードからの取得も可能

<https://drive.google.com/drive/folders/1LBHiCI-A9P6hhq47jHWFnygs-mf6hgPi?usp=sharing>



・個人情報の取り扱いについて

- (1) 本学が保有する個人情報は, 「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」を遵守するとともに, 「国立大学法人北海道大学個人情報管理規程」に基づき, 保護に万全を期している。
- (2) 出願書類に記載されている氏名, 住所その他の個人情報については, ①入学者選抜, ②合格者発表, ③入学手続, ④入学者選抜方法等における調査・研究, 及び⑤これらに付随する業務を行うために利用する。
- (3) 合格者のみ, (2)の個人情報を入学後の①教務関係(学籍, 修学指導等), ②学生支援関係(健康管理, 奨学金申請等), ③授業料等に関する業務を行うために利用する。
- (4) (3)の個人情報のうち, 氏名及び住所に限って, 北大フロンティア基金及び本学関連団体である北海道大学体育会からの連絡を行うために利用する場合がある。

・入学試験に関する問い合わせ先

北海道大学文学事務部教務担当

TEL (011) 706-3005, 3004 (月～金 8:30～17:00 / 祝日を除く。)

Email: lkyom@let.hokudai.ac.jp

※問い合わせは、やむを得ない場合を除き志願者本人が行うこと。

・各種情報開示について

翌年度5月に志願者数、合格者数、入学者数の情報をウェブサイト上で公開する。

・海外からの検定料支払方法について

海外からクレジットカード等による検定料の納入を希望する者は、事前に以下の QR コード又は URL にアクセスし、「検定料の海外支払い申し込みフォーム」へ入力すること。後日、必要な手続きについて案内する。

検定料の海外支払い申し込みフォーム

(URL <https://forms.gle/jyTBtyG51gepPuyKA>)



・その他

試験実施に関する変更や追加の連絡事項等がある場合はウェブサイトに掲載するため、出願前に確認すること。

別記1 (志望専攻, 研究室決定の参考)

・修士課程授業科目表

人文学専攻	人文学専攻	人間科学専攻
(哲学倫理学研究室提供科目) 哲学 特殊講義 倫理学 特殊講義 論理学 特別演習 古代中世哲学特別演習 近現代哲学特別演習 倫理学 特別演習 (宗教学インド哲学研究室提供科目) インド哲学仏教学特殊講義 宗教学 特殊講義 インド哲学仏教学特別演習 宗教学 特別演習 (日本史学研究室提供科目) 日本史学 特殊講義 日本古代史特別演習 日本中世近世史特別演習 日本近現代史特別演習 (東洋史学研究室提供科目) 東洋史学 特殊講義 東洋史学 特別演習 (西洋史学研究室提供科目) 西洋史学 特殊講義 西洋史学 特別演習 (考古学研究室提供科目) 考古学 特殊講義 考古学 特別演習 北方考古学特別演習 考古科学特別演習 環境考古学特別演習 考古学 特別実習 (文化人類学研究室提供科目) 文化人類学 特殊講義 文化人類学 特別演習 (芸術学研究室提供科目) 芸術学 特殊講義 芸術学 特別演習 (博物館学研究室提供科目) 博物館・文化財研究特殊講義 博物館・文化財研究特別演習	(欧米文学研究室提供科目) 英米文学 特殊講義 西洋文学 特殊講義 英米文学 特別演習Ⅰ 英米文学 特別演習Ⅱ 英米文学 特別演習Ⅲ 西洋文学 特別演習 言語文化論 特別演習 (日本古典文化論研究室提供科目) 日本古典文化論 特殊講義 日本古典文化論 特別演習 文献学(国語・国文) 特別演習 (中国文化論研究室提供科目) 中国文化論 特殊講義 中国思想 特殊講義 中国語学 特殊講義 中国文学 特殊講義 中国思想 特別演習 中国語学 特別演習 中国文学 特別演習 (映像・現代文化論研究室提供科目) 映像表象文化論 特殊講義 現代表象文化論 特殊講義 日本現代文化論 特殊講義 映像表象文化論 特別演習 現代表象文化論 特別演習 日本現代文化論 特別演習 (言語科学研究室提供科目) 言語学 特殊講義 英語学 特殊講義 西洋言語学 特殊講義 日本語学 特殊講義 言語学 特別演習 英語学 特別演習 西洋言語学 特別演習 日本語学 特別演習 言語分析論 特別演習 (スラブ・ユーラシア学研究室提供科目) スラブ・ユーラシア研究 特殊講義 スラブ・ユーラシア総合研究 特殊講義 スラブ・ユーラシア総合研究 特別演習 スラブ・ユーラシア文化研究 特別演習 スラブ・ユーラシア社会研究 特別演習 スラブ・ユーラシア相関研究 特別演習 (アイヌ・先住民学研究室提供科目) アイヌ・先住民学 特殊講義 アイヌ・先住民学総合 特殊講義 アイヌ・先住民学 特別演習 アイヌ・先住民学海外 特別演習	(心理学研究室提供科目) 心理学 特殊講義 認知理論 特別演習 行動理論 特別演習 知覚情報論 特別演習 表象構造論 特別演習 知識構造論 特別演習 思考過程論 特別演習 学習過程論 特別演習 (行動科学研究室提供科目) 行動科学 特殊講義 行動科学 特別演習 行動実験調査法 特別演習 計量行動学 特別演習 数理行動学 特別演習 社会心理学 特別演習 集団力学 特別演習 (社会学研究室提供科目) 社会学 特殊講義 社会調査法 特別演習 社会学理論 特別演習 社会集団論 特別演習 社会構造論 特別演習 社会変動論 特別演習 (地域科学研究室提供科目) 地域科学 特殊講義 地域分析法 特別演習 地域社会学 特別演習 地域社会学 特別演習 開発社会学 特別演習 地域環境学 特別演習 人文地理学 特別演習 人経地地理学 特別演習 地誌学 特別演習 地理学 特別演習 地域調査 特別演習 地域科学 特別演習

・各研究室における専門分野

人文学専攻

講 座	研 究 室	教 員	専門分野
哲学宗教学	哲学倫理学	教授 藏田 伸雄 教授 田口 茂 教授 村松 正隆 准教授 近藤 智彦 准教授 佐野 勝彦 准教授 宮園 健吾 特任准教授 ヤコブス・ケリン* 助教 野村 恭史	哲学・哲学史, 倫理学・応用倫理学, 論理学, 社会思想史
	宗教学インド哲学	教授 佐々木 啓 教授 宮嶋 俊一 准教授 林寺 正俊 准教授 眞鍋 智裕	宗教学, インド哲学, 仏教学
歴史学	日本史学	教授 権 錫永 教授 白木沢 旭児 教授 谷本 晃久 教授 橋本 雄 准教授 川口 暁弘 助教 高鳥 廉	日本史学
	東洋史学	教授 佐藤 健太郎 教授 吉開 将人 准教授 梅村 尚樹	東洋史学
	西洋史学	教授 砂田 徹 教授 長谷川 貴彦 教授 松嶋 明男 教授 村田 勝幸 教授 山本 文彦	西洋史学
	考古学	教授 江田 真毅 教授 小杉 康 教授 高瀬 克範 准教授 國木田 大 助教 高倉 純 助教 中澤 祐一	考古学, 物質文化論, 植物考古学, 動物考古学, 実験考古学, 文化財科学
文化多様性論	文化人類学	教授 小田 博志 准教授 コーカー・ケイトリン・クリスティーン 准教授 山口 未花子	文化人類学
	芸術学	教授 谷古宇 尚 准教授 浅沼 敬子 准教授 今村 信隆	美学・芸術学, 西洋美術史, 現代美術史
	博物館学	教授 佐々木 亨 准教授 鈴木 幸人 准教授 久井 貴世	博物館学(博物館人類学を含む), 文化財学, 博物誌, 日本美術史

*で示す教員は指導教員になることができません。

人文学専攻

講 座	研 究 室	教 員	専門分野
表現文化論	欧米文学	教授 瀬名波 栄潤 教授 竹内 修一 教授 竹内 康浩 教授 戸田 聡 助教 宮下 弥生	英米・英語圏文学, フランス文学, 西洋古典文学
	日本古典文化論	教授 金沢 英之 教授 後藤 康文 准教授 野本 東生	日本古典文学, 日本古典文化
	中国文化論	教授 近藤 浩之 教授 弐 和順 准教授 田村 容子	中国思想, 中国語学, 中国文学
	映像・現代文化論	教授 阿部 嘉昭 教授 応 雄 教授 押野 武志 教授 中村 三春 教授 水溜 真由美 准教授 小川 佐和子	映像論, 表象文化論, 日本文学(近代・現代), 日本文化(近代・現代), 日本思想(近代・現代)
言語科学	言語科学	教授 李 連珠 教授 加藤 重広 教授 佐藤 知己 特任教授 清水 誠 教授 野村 益寛 教授 藤田 健 准教授 菅井 健太 准教授 蔦 清行	言語学, 国語学, 日本語学, 英語学, ドイツ語学・ゲルマン語学, フランス語学・ロマンス語学, ロシア語学・スラブ語学
スラブ・ユーラシア学	スラブ・ユーラシア学	教授 岩下 明裕 教授 宇山 智彦 教授 ウルフ・デイビッド 教授 仙石 学 教授 田畑 伸一郎 教授 長縄 宣博 教授 野町 素己 准教授 青島 陽子 准教授 安達 大輔	ロシアの社会と文化, 中央ユーラシアの社会と文化, 東欧の社会と文化
アイヌ・先住民学	アイヌ・先住民学	教授 加藤 博文 准教授 石原 真衣 准教授 落合 研一 准教授 北原 次郎太 准教授 丹菊 逸治 准教授 蓑島 栄紀 准教授 山崎 幸治	アイヌ・先住民に関する文化人類学, 言語学, 考古学, 歴史学, 博物館学, 文化遺産学

人間科学専攻

講 座	研 究 室	教 員	専門分野
心理学	心理学	教授 安達 真由美 教授 川端 康弘 教授 河原 純一郎 准教授 小川 健二 准教授 金子 沙永 助教 森本 琢	認知心理学, 認知科学, 実験心理学, 音楽心理学, 視覚科学, 認知神経科学, 認知行動科学
行動科学	行動科学	教授 大沼 進 教授 高橋 伸幸 教授 竹澤 正哲 教授 結城 雅樹 准教授 高橋 泰城 准教授 瀧本 彩加 助教 中島 晃	行動科学(社会心理学, 文化心理学, 環境心理学, 進化心理学, 行動経済学, 比較認知科学など)
社会学	社会学	教授 櫻井 義秀 教授 平澤 和司 准教授 伍 嘉誠 准教授 樋口 麻里 助教 清水 香基	社会学
地域科学	地域科学	教授 池田 透 教授 笹岡 正俊 教授 橋本 雄一 教授 宮内 泰介 准教授 高橋 昂輝 准教授 林 琢也 助教 立澤 史郎	人文地理学, 地域社会学, 社会生態学

※本表は, 2023年4月1日に文学院に在籍する予定の教員の一覧であり, 記載内容は変更となる場合があります。

別記2 出願資格審査

「2. 出願資格」の(7)(8)(社会人特別入試は(7)(10))…修士の学位を有していない者に対する個別の資格審査…により出願しようとする場合

(1) 提出書類

- ①受験資格審査願(本学院所定の用紙, 申し出により交付する。)
- ②入学願書(外国人留学生は初等教育から最終学歴まで全ての入学, 卒業に関する情報を記入すること。)
- ③最終学校の卒業証明書, 成績証明書
- ④最終学校卒業後の学習歴, 実務経験等を2,000字以内で述べたもの。
- ⑤最終学校卒業後の学習歴, 実務経験を証明できるもの。

例: 教育機関の在学証明書, 成績証明書

研究機関の在職証明書又はこれに代わるもの。

出版物, 講演会発表要旨

- ⑥返信用封筒(出願資格通知用)

封筒(長形3号)に申請者の郵便番号・住所・氏名を明記し, 344円分の切手を貼付したもの。

(2) 提出期限

【前期試験】「2. 出願資格」の(7)(8)(社会人特別入試は(7)(10))に対する個別の資格審査は行わない。

【後期試験】2022年11月11日(金)

(3) 審査基準

次のア, イの両方の条件を満たす者に, 出願資格を与える。

ア 客観的に証明できる学習歴, 実務経験を有し, それらの年数と本人の受けた学校教育の年数を合算し, 18年以上となること。

イ 修士学位論文に相当する学習・研究成果をあげていること。

別記3 オンラインで受験する方へ

オンラインで受験するためには、指定された受験環境を、受験者自ら揃える必要があります。

以下を熟読し、試験に備えてください。

なお、口述試験等の中で、筆記による試験を実施する研究室の受験者は、別記4に記載のとおり、事前にオンライン試験受験のための環境確認が行われることにもご留意ください。

〈注意事項〉

対面方式／オンライン方式の選択は、出願時のみ選択可能です。届け出後の変更は原則として認めません。

受験者の責任による機器不調で試験が継続できない場合、欠席として扱われます。

自室などの静謐な環境で受験してください。試験時間中に受験者以外の第三者が受験場所にいたり、入室したりした場合は、試験を中止します。不正行為が疑われる場合は、試験の続行を認めず失格とし、不合格となります。

トイレ等の理由を問わず、試験時間中に席を離れた場合には、その時点で試験を終了します。

試験時間内に参照や使用を許可されていない資料やデバイスを使用した場合は、失格とし、不合格となります。

試験問題は試験時間内の閲覧のみ許可します。試験終了後も保持すること及び他者への公開は固く禁じます。指示違反が確認された場合は、事後でも合格を取り消すことがあります。(試験問題の提示がある場合)

筆記による試験中に、他の受験者からの質問や監督教員からの指示などがあった場合や、日常的な生活騒音等(他の受験者や監督教員の動作音、周囲の物音など)が発生した場合も、特段の配慮は行いません。

〈オンライン受験に必要な環境〉

下記の物を試験当日まで(受験のための環境確認を行う研究室は確認時まで)にすべて用意すること。用意できない場合は受験することができません。

なお、別記4「研究室別試験案内」で別途指示がある場合は、それに従ってください。特段指示が無い場合は、下記受験環境を用意してください。

※試験当日に不備があった場合、不合格となります。

- ① 個室(試験時間中に第三者が入ってこない静謐な環境)
- ② カメラ付きデバイス1台(パソコン推奨)
- ③ マイク、スピーカー(ヘッドフォン可)

〈実施方法〉

試験はインターネットを介した Web ミーティング(Zoom)で実施しますので、使用するデバイスに Zoom のアプリをインストールしておいてください(zoom.us から無料でインストールできます)。海外在住の方で、Zoom アプリを使用できないことを理由として、Webex 等の使用を希望する場合には、出願時に必ず申出書(任意様式)を作成し、願書と一緒に提出してください。出願期間を過ぎてからの申し出はできません。

安定したインターネット接続環境が必要となります。インターネット接続は、無線(Wi-Fi)よりも有線の方が安定し、スマホでは電話回線(SIM 接続)より無線(Wi-Fi)のほうが安定しているとされますが、事前に、個々人の環境で確認しておいてください。

「口述試験等」のなかで、専門知識を問う問題・外国語能力を問う問題・資料や文献の読解力を測る課題などを出題する研究室があります。問われる内容や出題方法は研究室によって異なります。

接続の不具合があった際など、緊急時に願書及び申し込みフォームに記入した電話番号及びメールアドレスに連絡することがあります。

その他試験実施に関するお知らせは受験票送付時に送ります。

別記4 研究室別試験案内

人文学専攻

研 究 室	受験者が受験時に用意するもの	その他受験者への連絡事項 ※提出書類は、出願書類と併せて出願期間に提出すること。
哲学倫理学	なし	なし
宗教学インド哲学	なし	なし
日本史学	なし	なし
東洋史学	なし	なし
西洋史学	なし	なし
考古学	なし	なし
文化人類学	なし	なし
芸術学	なし	なし
博物館学	なし	なし
欧米文学	なし	検定試験などによる外国語(志願者の母語でない言語)の能力を証明するもの(日本語検定、英検、TOEIC や TOEFL、仏検など)があれば提出してもよい。
日本古典文化論	なし	なし
中国文化論	オンライン受験者は、パソコン及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)を用意すること。	オンライン受験者には、機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前までに大学から受験者へ連絡する。
映像・現代文化論	なし	なし
言語科学	なし	(1)口述試験において、言語学、国語学、日本語学、英語学、ドイツ語学・ゲルマン語学、フランス語学・ロマンス語学、ロシア語学・スラブ語学の中でどの分野を選択するか、 (2)入学後、どの教員を指導教員として希望するか、 の2点を研究計画書の末尾に明記すること。
スラブ・ユーラシア学	オンライン受験者は、パソコン及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)を用意すること。	オンライン受験者には、機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前までに大学から受験者へ連絡する。
アイヌ・先住民学	なし	なし

人間科学専攻

研 究 室	受験者が受験時に用意するもの	その他受験者への連絡事項 ※提出書類は、出願書類と併せて出願期間に提出すること。
心理学	オンライン受験者は、パソコン及びスマートフォン(筆記による試験中の試験監督用に手元を写し出すため、また緊急連絡のため)を用意すること。	オンライン受験者には、機器やオンライン接続の確認などのため、試験の1週間前までに大学から受験者へ連絡する。
行動科学	なし	なし
社会学	なし	なし
地域科学	提出した研究計画書の説明に必要な資料	なし

北海道大学大学院文学院

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目
011-706-3005, 3004 (教務担当)

<https://www.let.hokudai.ac.jp/>